

Rotary Club of AMA weekly report.



2021~2022年度
国際ロータリーテーマ

奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために



2021-2022年度 R I 会長 シェカール・メータ
第2760地区ガバナー 沓名 俊裕
会長 家田 安啓 副会長 谷川 浩司
幹事 中島 英之
例会日 毎週月曜 例会場 名鉄グランドホテル
【公共イメージ向上委員会】
委員長 稲垣 秀樹 副委員長 神戸 剛
委員 浅野多喜男・古川 宏・後藤袈裟美・
池崎 晴美・西川 広樹・田中 正博

【事務所】〒453-0015 名古屋市中村区椿町17番16号 丸元ビル TEL(052)451-6617 FAX(052)451-6710 e-mail: kk01-ama@eos.ocn.ne.jp

2021年 10月18日(曇り) 第2週 第2364回例会

Song ” 我らの生業 ”

Guest 米山奨学生 牟 桐君

Attendance

会員	70名	欠席	12名	出席率	79.31%
----	-----	----	-----	-----	--------

President Time

家田安啓 会長



急に気温が下がり、夏から冬に変わってしまいました。体調に気をつけて下さい。今月は米山月間ということで、本日は、当クラブの米山記念奨学委員会委員長である渡辺均君と奨学生のム・トン君と地区の米山記念奨学委員会の委員である栗木和夫君にお話をいただくことになっています。宜しくお願いします。

さて、今日は「法の日」について、お話をしたいと思います。10月1日が法の日とされており、この日の新聞に弁護士事務所の広告がまとめて掲載されています。私の事務所も、中日新聞に広告を掲載しておりますので、お気づきいただいた方もおられると思います。かつて、20年ほど前までは、弁護士事務所の広告は禁止されていました。土業としての矜持から、宣伝をするような品のないことは許さないという空気感だったように思います。そのため、この「法の日」のほかに、「成人の日」と「憲法記念日」の年3

回だけ、新聞広告が許されていました。今はテレビコマーシャルも多く流され、地下鉄でもアナウンスがあり、時代が大きく変わっています。

本題に戻りますが、この10月1日の「法の日」ですが、その由来は、昭和3年10月1日の陪審制が施行されたことを記念して定められた「司法記念日」にあるそうです。戦後、昭和34年になって、裁判所、検察庁、弁護士会が三者協議会を開いて、この10月1日を「法の日」とすることが決められました。これを受けて、翌年になって、政府が10月1日を正式に「法の日」と決めました。

現在、裁判員制度と言われる「裁判員が裁判に参加する制度」ができていますが、戦前にすでに陪審法という名の法律が作られ、5年ほどの準備期間をかけて、昭和3年10月1日に施行され、陪審制が行われていたものです。この陪審法は昭和18年には戦争の影響で停止され、以来そのままになっており、未だにこの法律は廃止されていないとのこと。

「法の日」は、法の尊重、基本的人権の擁護、社会秩序確立の精神を高めるためにふさわしい行事を実施することになっています。これに対し、「世界法の日」という日は別

Today	10月25日(第2365回)
担当	加藤春視 プログラム委員長
演題	卓話「沖縄の文化と歴史について」 美ら島沖縄大使 濱盛重則氏
Next Week	11月 8日(第2366回)
担当	家田安啓 会長
演題	地区大会報告

にあります。9月13日が「世界法の日」です。これは、1965年の「法による世界平和第2回世界会議」で採択され、その会議が開催された9月13日が、そのまま「世界法の日」となりました。

法の支配と言いますと、悪法でも法に従わないといけないことになります。変な法律が作られないように、選挙を通じて立法院を監視することも重要であろうと思います。

Secretary Report

中島英之 幹事

- 1 次週10月25日（月）の例会場は名鉄ニューグランドホテル7Fとなります。お間違えなきようお願いいたします。
- 2 山田尊久君が第4回米山功労者に寄付されました。
- 3 伊藤英毅君に第4回米山功労者感謝状が参りました。



- 4 大竹敬一君に第3回米山功労者感謝状が参りました。



- 5 渡辺 均君に第7回米山功労者感謝状が参りました。



- 6 加藤 徹君、伊藤正征君、鈴木與左衛門君、臼井幹裕君、家田安啓君、中島英之君に第1回米山功労者感謝状が参りました。



- 7 あまロータリークラブに第43回米山功労クラブ感謝状が参りました。

ニ コ ボ ッ ク ス

ご投函有り難うございます

家田安啓 会長

渡辺均米山記念奨学委員長、牟 桐君、栗木和夫地区委員、本日はよろしくお願いします。

急に寒くなりました。身体に気をつけてください。

谷川浩司 副会長

娘が20才になります。ついこの前、ここで「中ちゃんきらい！！松ちゃんやさしい！！」と騒いでいた娘がもう20才。月日の経つのは早いですね。

中島英之 幹事

黒川君、先日は有難うございました。

大竹敬一君

世間が動き始めました。

伊藤正征君

あまRC伝統の「酒肴会」、予約幹事宇津山会員より。コラーゲンたっぷりのあんこう鍋、場所は得仙。11月11日（木）17時45分集合。定員になり次第締め切ります。まだまだ空きがございます。会員同士の親睦には是非ご利用ください。

ワインフォーラム、世話人代表西川広樹会員より。ボジョレー・ヌーヴォの季節がやって来ました。11月18日（水）18時より、名鉄グランドホテルにて。

第453回ゴルフ部会例会及び忘年会のご案内。ゴルフ部会会長板津会員より。11月18日（木）桑名CC集合8時となっています。締切は10月25日となっております。ゴルフにご興味のある方は是非参加ください。

高山 敏君

お久しぶり。場所が合って良かった。

東海広光君

昨日のゴルフで前半全ホールワンパットハーフ9パットという記録が出ました。オリンピック大勝利！本人が一番ビックリ！！

渡辺 均君

本日、米山記念奨学会のご理解を頂くために、ほんの少し耳の痛い拙い卓話をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

選挙戦が始まり、大変多忙な毎日で、ゴルフが出来ません。

栗木和夫君

本日、地区米山記念奨学委員として卓話をさせていただきます。よろしくお願いします。

神戸 剛君

皆さん、寒くなってきました。インフルエンザにも気をつけましょう！！

山本輝幸君

少しずつ楽しみが増えてくる気がします。

名鉄ニューグランドホテル閉館に向けて、レストラン「TAIKOU」が感謝の美食会を開催！机に案内を置かせて頂きました。よろしくお願い申し上げます。

伊藤英毅君

先週土曜、大鼓の会が無事に終わりました。これでゆっくり眠れます。

加藤 徹君

ドラゴンズファンの友人と、函梅舫でインターネット観戦。お酒を飲みながら指名戦に一喜一憂。とても楽しかったので、来年もやろうと思います。

北野庸夫君

免許証再交付の為に認知症テスト、88点でした。3年前より10点上昇しました。

黒野晃太郎君

久しぶりに岡本重ちゃんに会いました。元気そうでした。

水野 真君

転倒が思わぬ軽傷で早く治りました。感謝です。

水谷安紀君

ニコボックスお疲れ様。

中澤浩一君

業界の職業奉仕で、名古屋港活性活動であるアッセンブリッジ名古屋に参加します。どなたか情報お持ちですか？

小倉廣三君

まもなく年末家族会のご案内をさせていただきます。沢山

の皆さんのご参加をお待ちいたしております。

田中正博君

渡辺均君、今日は米山奨学のお話、楽しみにしています。

合 計 53,000円

米 山 記 念 奨 学 会 の 理 解 に つ い て

米山記念奨学委員会

委員長 渡辺 均君



1952年、日本で最初に設立された東京ロータリークラブが、日本のロータリーの創始者と呼ばれる米山梅吉氏の功績を記念して始めた国際奨学事業が国内の全ロータリー地区の合同事業に発展したものです。米山記念奨学会は、勉学・研究のために日本の大学・大学院に在籍していて、将来日本と母国との架け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生の奨学を目的とする、日本のロータリークラブ独自の誇れる制度である。」

各ロータリアンの高潔な温かい精神の基で、毎年寄付金にて事業が運営されています。

委員長として是非お願いを申し上げます。

1. 入会時にスポンサーから米山記念奨学会への寄付について、丁寧にお話して頂きたい。2. 各ロータリアンのご都合があると思いますので、入会后3年くらいの方には第1回米山功労者になって頂くようにご寄付をお願いする（個人・法人寄付）。3. 米山記念奨学会への寄付は、寄付金控除の対象です。詳しくは2021-22年度米山記念奨学事業豆辞典21ページをご覧ください。

事業の使命は将来、日本と世界とを結ぶ「架け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これはロータリーの目指す「平和と国際理解の推進」そのものです。

以上、高いご理解をお願い申し上げます。



皆さん、こんにちは。本年より地区米山記念奨学委員会の委員となり本日奨学事業の理解促進活動の一環で卓話をさせていただきます。諸先輩方を前にして卓話をさせていただくことはおがましいのですが自分自身の勉強として、頑張りますのでご清聴いただければ幸いです。

では、米山記念奨学事業についてお話させていただきます。まず、米山奨学事業のはじまりについてですが、米山梅吉氏と仲間が1920年に日本初の東京ロータリークラブを創立しました。1946年に米山梅吉氏が逝去し、1952年に奨学事業の構想を立案、翌年「米山基金」として募金が始まりました。しかし、彼がこの事業を始めたのではなく、米山梅吉氏の没後、彼の偉業をたたえ、その精神を受けつぐ意味で始められたのです。事業のあゆみは、皆様に配布してある、ロータリー米山記念奨学事業「豆辞典」をご覧ください。

米山奨学事業の概要としまして、日本のロータリー独自の事業、日本で学ぶ外国人留学生の支援、世話クラブ・カウンセラー制度で交流を重視する事になっています。なぜ外国人留学生を支援するかと言いますと、奨学事業の目的は「勉学又は研究のために来日し、我が国の大学等教育機関に在籍する外国人留学生に対して奨学金を支給する事によってロータリーの理想とする国際理解と親善と平和に寄与することを目的としています。

続きまして、米山奨学金と奨学生について、お話させていただきます。2020年の全国の奨学生は883名で、その内2760地区の奨学生は52名でした。国別で一番多い国は中国で6割になったため、国が偏り過ぎない為にも今後は5割未満にする予定です。なぜ中国人が多いかというと、日本の高等教育機関で学んでいる留学生の43.4%が中国人である為、必然的に割合が高くなってしまいう訳です。

では、米山奨学生はどのように選ばれているのかを、お話しします。米山奨学生は大学入学前の選考ではなく、地区選考委員会がいろいろな条件を考慮して指定校を選定し、

指定校ごとに募集する人数を決定しています。昨年度の2760地区の大学推薦申込人数は約170名でした。書類選考で面接に至ったのは約100名です。その後、合格者は51名になり、その内14名は本来1年である奨学生制度ですが、クラブ推薦を受け、追加で1年の奨学生制度を受けることになりました。推薦したクラブは奨学金の半分を支払う形となりますが、奨学生にとってそれは大変厳しい門戸であります。日本のロータリー数は、2237クラブあり、約9万人が在籍しています。2021年度の奨学生は129カ国、913名となっております。その内、43%が中国人です。米山奨学事業には、しくみがあります。世話クラブの例会に参加し、月に一回例会に参加したときに奨学金を現金で受け取ることとなっております。また例会だけでなく、奨学生との交流を深めるために、クラブの行事に参加してもらったり、旅行・娯楽・観劇・食事などに一緒に出掛けたり、また例会の席を毎回変えて多くの会員と自然に触れ合えるようにしたり、さまざまな工夫をしています。コロナが終息したのちは、またこのように交流を深める機会も多くなると思います。ここで奨学金の内訳について説明いたします。奨学生には「学部課程」は月間10万円、「修士課程」「博士課程」は月間14万円が支払われます。なお、各クラブには「世話クラブ補助費」として奨学生1名につき年間45,000円が支払われています。巣立った米山奨学生は学友として、さまざまな活動をしています。お祭りでボランティア、カンボジアの教育支援、ロータリーアクトクラブとともに和食文化体験、ロータリー学友と協力してバーベキュー、台湾や韓国での日本人奨学支援、マレーシアでは学校へマスクを寄贈し、スリランカでは医療キャンプも行っています。

2021年6月12日に台北国際大会が行われる予定でしたが、こちらは前年のハワイ国際大会に引き続き、コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。国際大会では米山奨学会ブース出展の予定もありました。

米山奨学生の学友で、現在はロータリアンであるモンゴル人のガラーさんは、母国で小中高一貫校を設立経営しています。「日本の発展の鍵は質の高い教育にあり、とりわけ高校の役割が大きい」と考えていたガラーさんは、国を背負うリーダーの育成を目標に日本式学校制度を取り入れ、6・3・3制度及び制服や給食、部活動に至るまで日本式の教育を進めています。その学校より名古屋大学に留学している学生も多いようです。私もモンゴルの学校に見学に行きましたが、それはそれは素晴らしく、学生の勉強に対しての熱意と意欲に圧倒されたのを覚えています。モンゴル出身のたくさんの元力士と一緒に協力・支援し、講演も行

っていました。ガラーさんは日本との交流もとても大切に
していて、私が8年前ロータリーの会長に就任した際の初
例会に、パストガバナーの田中正規さんとサプライズで駆
けつけてくださり、とても嬉しかったのを覚えています。
奨学生から学友となった方々は、日本に対して恩返し的气
持ちがとても強く、我々が自然災害で大変なときには、い
ち早く手を差し伸べてくれています。

続きまして、寄付金の状況になります。米山奨学事業に
とって寄付は欠かせないものとなっております。寄付には
普通寄付金と特別寄付金があり、その合計金額が寄付金額
となっております。昨年度の全国平均は一人、約15,000
円ですが、2760地区の平均金額は約14,000円となってい
ました。寄付実績としまして、特別寄付者の割合は全
国平均45.8%、2760地区の平均は33.7%となってい
ます。あまロータリークラブの6月末現在の平均寄付金額
は、一人当たり¥18,362円ですが、これまでご寄付いた
だいた累計金額5,724万5,700円です。これは、貴重な浄
財です。有難うございました。感謝申し上げます。奨学生
数は皆様の寄付額で決まります。普通寄付金と特別寄付金
が多ければ多いほど、採用枠が広がるのです。今後は一人
平均寄付額を¥20,000円の目標としております。特別寄
付金は、いつでも受け付けておりますので、更なるご寄付
をお願い申し上げます。なお、寄付金は税制上の優遇措置
を受けられます。

終わりにあたり、あまロータリークラブの米山奨学生に
ついてお話をさせていただきます。10年ほど前にベトナム出
身の奨学生でグウェン・シン・コン君は非常に貧しい家庭
に育ち、水牛の背中を黒板にして文字を勉強していました。
また、教科書は弟2人と共有して使い、物を大切にしてい
ました。将来、政治家になり国を豊かにしたいと言ってい
ました。そんなグウェン君は今なおクラブとの交流を続
けております。また15年前には我が家に交換留学生として
台湾の女子高校生がホームステイに来ました。通学先は津
島高校で私たち家族も言葉が通じず、大変苦労しました。
しかし、その彼女も結婚し、今では母となっています。台
湾で行われた出席者1000名程の結婚式には私たち家族3
人も招待され、日本のお父さん、お母さんとして紹介して
いただきました。このように、米山奨学生、交換留学生と
の交流を大切に日本と世界とを結ぶ「架け橋」がたく
さん出来ればと思っております。あまロータリークラブの
皆さんも、米山記念奨学事業の良き理解者になっていただ
きたく、お願い申し上げます。

これをもちまして、本日の米山奨学委員の卓話とさせて
いただきます。ご清聴ありがとうございました。



皆様、こんにちは。あまロータリークラブにお世話になっ
ている奨学生のムトンです。本日は日本に来てから、私の
成長したことや悩んでいることについて、このチャンスをお
借りして、スピーチをさせて戴きます。

私は中国の吉林省の出身で、大学卒業してから日本に留
学してきました。そのきっかけは、私の大学と名古屋大学
の短期交流活動があったので、申請する人は私以外、全員
日本語学部の学生ですけど、あの時の日本語能力がほぼゼ
ロの私が試しに申請しました。結局意外に合格しました。
ただ二週間ですけど、大学卒業したら日本に留学したいな
と、思いました。気づいたらもう三年間が経ちました。ず
っとひとり暮らしなので、自己認識の機会も多くなりました。
家族と人間関係この二つの方面から展開したいと思います。

普通の90年代の中国家庭と同じように、私は一人っ子で
す。生まれてからずっと両親の100%の愛を頂いています。
親ができる限り、欲しがるものを何でも買い与えてくれた
り、甘やかして育てたりしてくれました。大学の時に、両
親の毎月の仕送りをもらい始めました。でもあの時、仕送
りを当然だと思って、お金を使っていました。お金の使い
方が荒かったです。あの時の私にとって、「親の子供だから」、
「学校の成績がいいだけでいい」と思って、違和感が全然
なかったです。 留学生活が始まったら、全ての認知が変わ
りました。自分の部屋はいつも綺麗なままってこと、ラン
ドリーバスケットに洗い物が一つでもないこと、洗い場の
シンクにお皿でもないこと、これらの大学毎月帰省する時
に当たり前だと思ったことは、親の苦労がなければそのは
ずではないと、掃除しないときたなくなると、毎日の食器
洗わないとシンクに溜まると、日本のひとり暮らし生活が真
剣に始まったら初めて知りました。家事と仕事の両立って
お母さんどうやってできるのって思ったら、いつもお母さ
んを思います。親が居ればよかったとか、家事を助けても
らいたいかではなく、今まで気づかなかった親の苦労に
恥ずかしさを痛感します。親孝行がしたいという思いがど

んどん強くて、社会人になったら一番やりたいことは「親に恩返し」になりました。恥ずかしいですが、今も毎月両親の仕送りを貰っています。でも学校の奨学金の中に、もう金額おおよそ多いこのロータリー米山奨学金申請できたので、ビデオチャットで両親に教えたら、「よくできたね」という言葉を頂きました。スマホ越しでも、両親の弾けるような笑顔は心を打たれました。あの日は忘れられません。そのほか、毎週のビデオチャットを終了する前に、いつの間にか、両親に「愛してるよ」と直接にいうようになりました。欧米社会では家族同士で“I love you.”と言いつけるのは当然ですけど、アジア社会では、両親に愛しているのは当たり前なので、逆に恥ずかしくて、言いにくい、そう思う人は大多数でしょう。ですからほとんど言いません。こんな「ずっと思っている」気持ちをストレートに両親に伝えたほうが、私を落ち着かせます。

生活において、例えば、日本に来る前に自分で料理をしたことない私が、今たくさん料理ができます。難しそうに見える料理も実は自分でやってみると、できなくはないと分かりました。最初は外食では量が少なくて自分でつくらなきゃいけなかったですけど、どんどん料理の楽しさが分かってきました。食材、スパイス、火加減など、どれでも楽しめます。わざわざ遠い店に 20円も安いネギがこんなに喜ばせると思ったことは料理を始める前に全然なかったです。むしろ、自炊しなければ、この 20円の楽しさが一生わからないかもしれないと思います。作った料理はすべて自分が好き、食べながらぐびぐびとビールを飲むなんてストレスが解消できるので、毎日生活に小さな幸せです。生活に親には心配かけないからこそ、学業にはげむ、精進「しょうじん」します。これは私の今できる親孝行でした。

もう一つ方面は人間関係です。いつの間にか、人間関係は難しいって思ってきました。友達という意味さえもわからなくなりました。子供の頃、一緒におもちゃで遊ぶ人は友達です。小学生の頃、同じクラスの人は友達です。大学生の頃、暇の時一緒に外出したりする人は友達です。全ての人間は赤ちゃんから成長してきたので、心にある部分が満たされるのは、友達でしかできないとよく分かりました。しかし成長するとともに、友達だと認定する範囲も縮まりました、私には友達がいないのになってよく思い浮かんでいました。私にとって、異文化に触れているせいが多少あるけど、多くを占めるのは自分の年齢が上がるにつれて、考え方が変わりました。大人になると、自分がどんどんエゴイズムを受け入れやすくなったと思いました。私は、本心が打ち明けられる友達がほしいです。一人ぼっちの夜に、「連絡先が登録して、相手にこれからよろしくねって送信した

けど、それから連絡一切なかったら、友達って言えます？」とか「みんな忙しいから、食事とか遊びに行くなど誘おうとしても相手にはわざわざ時間ないだろう、いっそうのこと誘わない」とか「勇気を出して誘っても、断られたら情けないじゃん、こんな誘い二度と絶対ない」とかよく考えていました。相手の立場に立って考えると、「なんでいきなり誘いが来たのか、もしかしたらなんか求める「もとめる」？」とか「親しくないから機嫌が悪い」とかも思いました。利益を求めて合う友達は作らなくてもいいと、強く感じました。ですから、ほとんど新たに連絡先交換した人には、最初の挨拶だけで、終わります。連絡がしないので、関係も当然に薄くなります。結局、その人は居てもいい居なくてもいい存在になりました。どんどん、どうせ連絡先を交換しても、お互いに連絡しないと、予め最後の結果を予想したみたいに、時間と労力を節約して、いっそうのこと友達を作る必要ないと思いました。悪循環に落ちました。考えれば考えるほど、腹を割ることができる友達ができない、そんな友達さえもいらないと思いました。これが今までの人生に一番の悩みでした。その時の私は、未来の心身が成熟した自分に任せると選びました。恥ずかしいですが、私今年25歳なのに、まだ子供みたいに甘いと思っています。18歳の私が想像した25歳の私は、今よりもっと立派だったはず。母親は25歳の時に私を産みました。しかし、今同じ年の私が子供育ちはおろか、自分の面倒を見るさいうまくいかないうて思いついたら、いつも恥ずかしくなります。友達同士はお互いに利益を求めて合う、心に満たさせることができる存在だ、これは私の定義した友達です。ですので、ロータリークラブの例会に参加する時に、いつも羨ましく感じます。

皆様は各領域でもういい世評を受けていますし、なんでロータリークラブに入会すると自分に聞きました。事業上の利益の増大を求めるのはもちろんですが、より多くのは友達からしか与えられない、物事に取り組む時の楽しさも求めるかなと思います。小さい頃に友達とゲームしてボスを倒すと同じように、みんな一緒にになにかに取り組むことが最高だと思います。うまくいなくても、その過程自身も楽しいです。今までまだ完璧に解決していないけど、見当が少しつきました。過去の考えは両極端でした。世界は白いも黒いもではなく、白と黒の間にカラフルです。人間関係において、どうやって自分を納得させるかというと、時間に任せます。

最後、いつも支えてくださった栗木さんに感謝を申し上げます。皆様にもいつもお世話になって、ありがとうございます。ご清聴ありがとうございました。